

令和5年度大学の世界展開力強化事業プログラム委員会（第4回）議事概要

1. 日 時 令和6年3月1日（金）14:00～15:30

2. 開催方法 Web 会議

3. 出席者 委員 浅田委員、飯吉委員、今村委員、勝委員、熊谷委員、黒田委員、
國領委員、杉村委員、但田委員、長尾委員、林委員、日比谷委員、
宮本委員、渡邊委員

文部科学省 植村 高等教育局参事官（国際担当）付参事官補佐、
吉岡 高等教育局参事官（国際担当）付専門官 ほか

事務局 小谷 独立行政法人日本学術振興会理事、
安藤 大学連携課長、安永 同課長代理 ほか

4. 議題及び概要

（1）令和6年度新規公募等について

文部科学省から、令和6年度新規事業の公募について資料1-1及び資料1-2、事務局から、審査方法等について資料1-3～資料1-6に基づき説明があった。主な意見は以下のとおり。

- ・（令和6年度大学の世界展開力強化事業新規公募について）実渡航前に教育プログラムみたいなことを提供するという場合には、オプションにオンライン教育を受ける学生数を指標として設定するが、もう少し緩く学生交流みたいなことで、特に教育プログラムとしてデザインされていないという場合には、この指標の設定は要らないということよいか。
- ・令和6年度実施の大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業については、やはり大学の教育の質や研究の強化というところに、焦点を当ててもらいたい。日本は、確かに人材不足になっているということはよく理解しているが、そういったものが目的になっているというのは、文部科学省の予算で実施する事業として少し違和感がある。
- ・大学の世界展開力強化事業について、令和6年度新規公募される EU 諸国等との大学間交流形成支援において、ダブルディグリーを作っていくということは、非常に重要だと思う。令和元年度の EU に関する公募ではエラスムスと連携して実施したが、今回は日本独自でやっていくのが気になった。修業期間の短縮など学事歴が異なっている場合の接続を考えてプログラムを実は作っていくことは非常に重要で、その辺もぜひ、重視をしていただきたい。
- ・令和6年度新規公募される EU 諸国等との大学間交流形成支援において、参加要件の中で、「欧州の経済安全保障戦略上の重要分野に関する交流プログラムを推奨」としているが、どういった経緯で、例示している、半導体、AI、量子技術、バイオ技術の分野を重点とするのかしっかり説明してほしい。また分野として、半導体、AI、量子技術、バイオ技術の

4つの分野に限定して半分以上にするのか、それとも、経済安全保障戦略上の重要分野を半分以上にするのかを明確にしてほしい。

- ・令和5年度の補正予算により、ASEAN 諸国からの留学生受入、定着促進のためのシステム構築等支援として JV-Campus の構築について実施することになり、令和6年度の新規公募には ASEAN は入れないということになっている。この作りだと、JV-Campus のシステム構築支援というのが、ASEAN に向けて作るように見えてしまう。本来、JV-Campus は幅広い対象を想定されるべきものと理解している。たとえば、今回の公募により、切り離す形となったが、EU と ASEAN の地域間をつなぐなど、多様で柔軟な視点が考えられるべきではないか。

(2) 令和6年度中間評価について

事務局から、中間評価の評価方法等について資料2-1～2-6に基づき説明があり、原案どおり承認された。

(3) 令和6年度事後評価について

事務局から、事後評価の評価方法等について資料3-1～3-6に基づき説明があり、原案どおり承認された。

(4) 海外相手大学の追加について

文部科学省から、海外相手大学の追加について資料4に基づき報告があった。

なお、議題(5)以降については「「大学の世界展開力強化事業プログラム委員会」の審議内容等の取扱いについて」1.(1)①(審査・評価に関する調査審議など公平・公正な審査に影響を及ぼすことが懸念される場合)に該当することから、内容は非公開とする。